

# 名産 方言集めて「超耕21ガッター」

# 全身「新潟」新ヒーロー



「超耕21ガッター」(右から2番目と「流れ巻次郎」(同3番目)。両側はショウタリアン帝国の戦闘員「モソコキムシ」＝長岡市の杜々の森名水公園

## 来月 観光、イベントで活躍へ

コメをテーマとした「当地ヒーロー」を県内に誕生させるプロジェクトが新潟市の印刷会社などで進められている。コメを破壊する怪人を相手に、稲葉「稲の種」を模したガッターを手にとり立ち向かう「超耕21ガッター」だ。方言「よったれ」(たらしめないこと)や、なじみの「田圃」などを登場人物、武器に使うなど、新潟らしさをこぎこんだわった。観光やバーゲンセールなどのイベントなどに登場させ、集客・PR効果を狙っている。

同市東区の印刷会社「て立ち向かう」という設定で「フジ」社長、浅川「進さん」(鳥)が秋田県で人気のあるヒーロー「超神ネイガー」をヒントに企画した。1月末、ネイガーをプロデュースする同県の海老名保さん(40)に協力を依頼した。新潟市の名産品や方言をリストアップしながら構想を練り上げ、5月末にスーツを完成させた。

宇宙から新潟に飛来し、稲やコメを破壊する謎の怪人「ショウタリアン帝国」に対し、農家の青年がガッターに変身し

トキ、すね当ではコメが製造会社と種数の企業と提携が準備中。浅川さんは「新潟の子」にも夢を込め、いろいろな言葉がガッターに稲葉性を感じて嬉しくくれたら」と意気込む。

このほど長岡市の杜々守りたい」と抱負を語った。7月に長岡市のハイクロ別で、6万円(撮手、撮影、30万円(1日2午後2時45分)と新潟市中央区の万代シティパーク(12日午後2時)でお7301らち。

2005年に生まれた秋田県のネイガーはテレビ放映もされるなど、人気。経営ともに順調という。ガッターもビジネスとして成り立たせる狙いで、既に県内のイベント・映像制作会社やグッズ製造会社と種数の企業と提携が準備中。